

## 建築と子どもたち

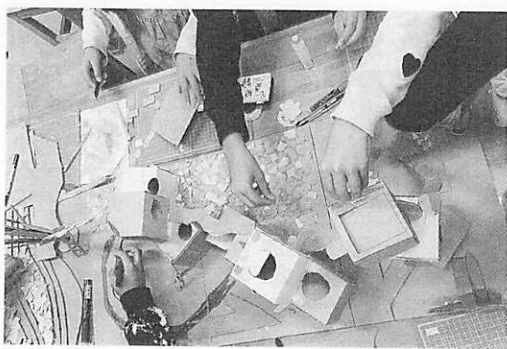
矢代 恵 (建築)

「つわあ〜 大きな街になったあ〜」歓声とともに拍手が沸き起こる。子どもたちの笑顔が眩しい、建築出前授業での一場面である。

人は生まれてきたからには何か役割を担っている。いつからか、私の役割は「つくる」「つたえる」「つなぐ」だと感じている。

建築学と教育学の境界領域を研究されたアン・テラー女史著の「ARCHITECTURE AND CHILDREN」と出会い、驚きと感動とともに、自分が子どもの時学びたかったと感じる。そして「子どもたちと一緒に、空間や建築を通して考えることをライフワークにしたい」という想いに導かれる。

未来を担う子どもたちが、創造力を養う多感な時期に、自ら感じ、考え、答えを見つけていく。話し合い、創り出していく。話し合い共に考え、共に創る。デザインを通して、本当の意味での「創造力」「知の基礎力」を養うことになるのでは……。私に出



グループで話し合いながら協力して村をつくる



発表のあとは記念写真 みんな良いお顔

来ること何だろう。一人では出来なくても連携すれば出来ることはあるはず。

小学校高学年、中学校への本授業「建築出前授業」に取り組んで今年で10年目になる。2010年、(公社)日本建築家協会近畿支部兵庫地域会「すまいまちづくり育成塾」としてスタートした事業は、現在17回、参加人数生徒1、136人、建築家延べ200人以上。多くの力が結集され開催を続けている。

建築仲間と膝を突き合わせて創ったプログラムのキーワードは「つながる」。ダンボール模型を使って、一緒に創り上げるプロセスを重視したワークショップでは、話し合い、発見し、自分と他者・環境とのつながりを、手と頭を使って段階的に体感していく。小さな学校では5〜6年生合同で10人程度、大きな学校では1学年240人を超える。授業1コマ、本授業2〜3コマ。限られた時間だけれど、最初は戸惑い不安げだった子ども

たちの目が、あ  
る一瞬、キラキラと「輝く目」に変わる。その瞬間がたまらない。それまでにかけたエネルギーを倍にして返してもらっている気がする。  
今、人と人の繋がり方を否応なしに考えさ

せられるウィズコロナ時代。新しい繋がり方を模索しながらも「つながる」はやはり大切なテーマだと思う。

「ARCHITECTURE AND CHILDREN」に出合ってから、抱き続けている想いがある。神戸市は2008年ユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市に認定、「まち」「くらし」「ものづくり」を基本的方針とする「デザイン都市・神戸」を推進している。未来を担う子どもたちの「創造力」「知の基礎力」「デザイン力」を育む建築授業を学校授業のプログラムに組み入れ生かすこと、それは未来を育むことにつながる。ここ神戸が、それを先導する役割を担えないだろうか。私はそれを夢見ている。夢追い人の性はいくつになっても変わらない。



矢代 恵 (やしろ めぐみ)  
MEG建築設計事務所代表

大阪市立大学生活科学部住居学科  
建築・住宅・インテリアの設計監理とともに、学生・一般への講師活動、社会活動として小中学校への「建築出前授業」を行う。  
神戸松蔭女子学院大学・広島女学院大学 非常勤講師  
兵庫県景観審議会委員  
神戸芸術文化会議、(公社)兵庫県建築士会、(公社)日本建築家協会 会員  
一級建築士・インテリアコーディネーター・一級カラーコーディネーター (環境色彩)